



2017年8月30日発行



今回の紙面から（ページと内容）

会長就任にあたって	1
第35回大会のお知らせ	2
第11回国際春季フォーラムのご案内	4
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	6
大会運営委員会より	7
広報委員会より	7
学会賞委員会より	7
日本英語学会2016年度会計報告	8
日本英語学会2017年度予算計画	9
言語系学会連合について	9
事務局より	10

会長就任にあたって

会長 伊藤 たかね

本年4月より、会長をお引き受けすることとなりました。思ってもいなかった重責を負う立場となり、大変緊張しつつ、大庭前会長、理事の先生方、前事務局のみなさんのお力添えをえて、なんとか最初の数ヶ月を新事務局メンバーとともに無事に乗り切って参りました。2年の間、力不足の身ではありますが、学会の今後のあるべき姿を見据えつつ、尽力していく心構えでおりますので、会員の皆様方のご理解・ご協力をお願いする次第です。

英語学会は1983年の「立ち上げ」の大会（於上智大学）とともに一步を踏み出しました。当時大学院生だった私は会場の隅にすわっておりましたが、自らの分野の発表の場を作り上げることに意を注がれた諸先生の熱い思いに強く打た

れたのをよく覚えています。それから30年を超えて、大会での発表や論文投稿、事務局、各種委員会など様々な形で英語学会にはお世話になって参りました。年に1回の大会と、年に1冊の *English Linguistics* 発行という活動から始まった学会は、歴代会長の強力なリーダーシップのもとに、*Conference Handbook* や *JELS* の発行、*EL* の年2回発刊、国際春季フォーラム開催、各種顕彰制度の設立、国際連携の強化など、目を見張るような発展をして参りました。正直なところ、これ以上何をすれば良いのだろうか、と思うまでに活発な活動だと言ってもよいと思います。

しかしながら、残念なことに学会員数は微減の傾向が続いており、現在は1303名までに減っております。特に学生会員の数が増えていないことに、危機感を感じます。研究成果発表の場が国際化し、会員制ではなく参加料を支払うことで誰でも発表に応募できる国際学会、投稿料・掲載料を支払うことによって投稿・掲載できる国際学術誌が中心になってくることによって、会員のみの発表の場として機能している学会に入ることの魅力が、特に若手研究者には見えにくいことが一因であらうかと考えます。

その中で、活動の多様化に伴う事務局業務は増大を続けてきたというのも実情であり、負担の大きさのあまり事務局の担い手がなくなるという恐れも感じざるを得ません。会員数が増えないということは予算的に厳しくなるということでもあり、アカデミックな活動の質を落とすことなく、いかに維持可能な運営システムを作るかが、喫緊の課題だと考えています。その模索の中で、ある種のサービス低下も覚悟しなければならないと考えており、学会員の皆様方にはご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、学術面には影響を及ぼさないということを絶対を守るつもりでありますので、事情をご理解いただけますよう、この場を借りてお願いする次第です。

やや暗い話になってしまいましたが、明るいニュースもあります。大庭前会長のご尽力のもとに交渉を続けてきたThe International Society for the Linguistics of English (ISLE) との連携が正式に発足し、春季フォーラムにISLE前会長のOlga Fischer先生をお招きすることができました。今後も、相互に講師派遣やワークショップ提案等の連携を深めて行く予定です。ELSOK (The English Linguistic Society of Korea) との連携も順調に継続しており、これが本学会としては2件目の継続的国際連携となります。

また、本学会の元会長・現顧問の中島平三先生より、多額のご寄付をいただきましたことを報告させていただきます。使途については、今後、評議員会・理事会等で検討して行く予定ですが、一般会計とは別に管理し、若手会員の研究活動奨励などに活かしていくことができれば、と考えております。

本年度の活動については各委員会からの報告等をご覧くださいこととして、ここで述べるのは割愛させていただきます。会員制の学会組織の存在意義が問われているのかもしれないという趣旨のことを上で述べましたが、日本における英語学分野の研究活動を支える組織として本学会の果たす役割が大きいものであることに変わりはありません。興味を共有する研究者が世代を超えて集い、意見を戦わせる場としての学会は、学問分野の継承と発展を促す強い力を持つはずです。時代の変化に応じて活動内容に修正を加えながら、この役割をさらに強化していくことができるよう、学会員の皆様とともに考えて行くことができれば、と願っております。これまでも増して学会の諸活動に積極的に関わってくださいますよう、学会員の皆様をお願い申し上げます。

第35回大会のお知らせ

日時：2017年11月18日(土)・19日(日)

場所：東北大学川内北キャンパス

(〒980-8576 仙台市青葉区川内41)

日本英語学会第35回大会は、東北大学大学院文

学研究科との共催で開催されます。現在、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第1日の午後と第2日の午後に予定しております。

11月18日(土)

9:30～11:45：ワークショップ，スチューデント・ワークショップ

12:00～12:50：総会

13:00～14:55：研究発表

15:15～18:00：シンポジウム

18:20～19:50：懇親会

11月19日(日)

9:30～12:10：研究発表

13:10～15:55：公開特別シンポジウム，シンポジウム

今年度は、5件のワークショップ（うち1件はスチューデント・ワークショップ）、37件の研究発表と6件のシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目を示します。）

A. 「意味と統語構造のインターフェイス」〔西垣内泰介〕（藤井友比呂「可算名詞・不可算名詞の別、一般数、および数素性」、遠藤喜雄「副詞節のinternal syntaxとexternal syntax」、西垣内泰介「潜伏疑問の統語構造」）

B. 「話しことばが新たに拓く文法の多重性：理論と実践」〔高梨博子〕（高梨博子「対話統語論からみた遊び表現の文法化現象」、遠藤智子「言語社会化における受益構文」、土屋智行「言語環境に応じた言語知識の活性化」、中山俊秀「会話に見られる言語表現の文法的特異性」）

C. 「英語史における定型表現」〔渡辺拓人〕（小塚良孝「古英語の動詞・目的語の語順にみられる定型性」、谷 明信「中英語における定型表現－binomialsの場合」、渡辺拓人「初期近代英語における近接未来表現の消長」、柴崎礼

士郎「後期近代英語から現代英語にかけての
定型表現と定型性の変化について」)

D.「音声研究の英語教育への貢献」(公開)[米
山聖子]「荒井隆行「英語教育のための学際的
アプローチによる音声研究」、近藤真理子・小
西隆之「通じる英語のための発音教育」、田嶋
圭一「日本人は英語のblowとbelowが正確に聞
き分けられるか?」、前田菜摘「日本人現役英
語教員と日本人大学生の英語の日本語アクセ
ント度について」、中村祐輔「高校英語教育の
現状と英語教員に求められる資質について」)

E.「言語の変化、言語の成長—複眼的視点か
ら」[仁科弘之](東条 敏「音楽における進化
言語学」、小林昌博「コネクションリストモデル
を使った第二言語(英語)習得の実験」、吉本
啓「日本語複合的機能語中の名詞の「名詞性」
について」、田村隆夫・仁科弘之「主要部内在
型関係節の連鎖」)

F.「慣用表現・変則的表現から見える英語の姿」
[住吉 誠](西村義樹「メンタル・コーパスと
は何か」、内田聖二「テキストのテンスとダイ
クシス」、住吉 誠「動詞のパタンに見られる
変則性」、コメンテーターとして八木克正)

公開特別シンポジウム「音声研究の英語教育へ
の貢献」については、非会員でも無料で参加でき
ます。この公開特別シンポジウムは、英語教育の
現場で活躍されている小中高の先生方のご参加も
期待されるところです。会員の皆様のお知り合い
で英語教育の音声面に特に興味のある皆様にお声
がけください。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の
「大会資料・プログラム」および9月以降日本英
語学会ウェブサイトに掲載されます「発表要旨」
と「ワークショッププログラム」(ともにダウン
ロード可能)をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費2,000円をいた

だし、*Conference Handbook*と名札をお渡ししま
す。名札をつけていない方は入室できませんので
ご注意ください。ただし18日(土) 午前のワーク
ショップおよびスチューデント・ワークショップ
と19日(日) 午後の公開特別シンポジウムは、参
加費と名札なしで入室できます。また、18日(土)
の受付は11時30分より始めますので、お早めにお
出かけください。

◇ 総会について

18日(土)の12:00より12:50まで総会を開催し
ます。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶
、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、
学会賞委員会、事務局からの報告ならびに授賞式
などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお
待ちしております

◇ 懇親会について

18日(土) 18:20より19:50まで、川内厚生会館
内の「川内の杜ダイニング」において懇親会(会
費4,000円、学生3,000円)を催します。是非ご参
加ください。

◇ 大会優秀発表賞について

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀発
表賞の審査が行われています。これは事前に審査
希望を申請した修士課程修了後10年以内の研究者
による発表を審査して表彰するものです。大会終
了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよび
ニューズレターで受賞者を発表します。

◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明
書等が必要な方は、返信用封筒を同封のうえ、下
記までご請求ください。書式が定まっている場合
には証明印以外の部分を記入したものをお送りい
ただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂・売店の利用時間について

18日(土)と19日(日)の両日とも、川内厚生

会館内の「川内の杜ダイニング」(11:00～14:30)と「川内購買書籍店」(11:00～14:00)をご利用いただけます。18日(土)のみ、同じく川内厚生会館内の「キッチンテラスCouleur(カレー・井コーナー)」(11:00～14:30)もご利用いただけます。なお、大学周辺にレストランやコンビニはありません。自動販売機は、学会会場にあります。

◇ 宿泊先の紹介について

今回の大会のため、17日(金)と18日(土)の宿泊先を東北大学生協同組合トラベルコープ工学部店にてご紹介しています。学会ウェブサイトの新着情報もしくは大会情報にある「宿泊施設のご案内」のリンクから英語学会用の予約サイトにお進みください。

◇ 「親と子の部屋」について

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は同封の「『親と子の部屋』のご利用について」をご覧ください。事務局までご連絡ください。

第11回国際春季フォーラムのご案内

第11回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2018年5月12日(土)・13日(日)

場所：北海道大学札幌キャンパス

(〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧ください。

終身会員の登録申請について

すでに昨年度の『え～ごがく』でお知らせしていますように、2017年度より終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方に

は、*EL*、*JELS*、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がおられることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から11年以上の会費を納めている場合には終身会員費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ホームページ上にある新着情報、またはトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 訃報

本学会の理事、副会長をおつとめになり、顧問でいらっしゃった井上和子先生(神田外語大学名誉教授・学術顧問/日本英語学会顧問)が2017年5月3日未明にご逝去されました。井上先生は、日本における言語学研究をリードされたことはもちろん、本学会の活動と発展のためにも多大なご尽力をくださいました。これまでの長年のご貢献に感謝しますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。井上先生のobituaryが*EL*34巻2号に掲載される予定です。

◇ ご寄付について

本学会の元会長・現顧問の中島平三氏より多額のご寄付をいただきました。その使途については学会にご一任くださるとのことで、若手会員の研究活動を援助するなど、今後、評議員会及び理事会で検討することとしています。中島氏には心より感謝申し上げます。

◇ 会計

2017年6月18日に開催されました第74回理事会において、日本英語学会2016年度収支決算書と2017年度予算計画書が承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの8ページから9ページに掲載

されておりますのでご覧下さい。

◇ 役員の異動

会長（退任）

2013年4月1日より2期合計4年間の任期を終えられ、大庭幸男氏が2017年3月31日付けで会長を退任されました。

顧問（退任）

井上和子氏が2017年5月3日付けで顧問を退任されました。

評議員（退任）

大沢ふよう氏、河西良治氏、加藤雅啓氏、川瀬義清氏、高橋邦年氏、立石浩一氏、坪本篤朗氏、竝木崇康氏、二枝美津子氏、長谷川信子氏、丸田忠雄氏、以上11名の方が2017年3月31日付けで評議員を退任されました。

広報委員長（退任）

五十嵐義行氏が2017年3月31日付けで広報委員長を退任されました。

学会賞委員長（退任）

長谷川信子氏が2017年3月31日付けで学会賞委員長を退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

会長（就任）

伊藤たかね氏が2017年4月1日付けで会長に就任されました。

評議員（就任）

石居康男氏、岩崎真哉氏、大竹芳夫氏、北田伸一氏、児玉一宏氏、椎名美智氏、寺尾康氏、中村良夫氏、西山國雄氏、藤本滋之氏、松尾歩氏、若林茂則氏、以上12名の方が2017年4月1日付けで評議員に就任されました。

広報委員長（就任）

鎌田浩二氏が2017年4月1日付けで広報委員長に就任されました。

学会賞委員長（就任）

高橋英光氏が2017年4月1日付けで学会賞委員長に就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1303名（6月1日現在）です。内訳は、学生会員30名、通常会員1119名、維持会員107名、海外会員11名、終身会員20名（顧問7名を含む）、賛助会員16団体となっております。

◇ 海外学会との交流について

- 理事会では、昨年度から海外の学会との研究交流を進める目的で、ヨーロッパに拠点を置く ISLE（The International Society for the Linguistics of English）との間で、相互の大会への参加などの交流関係を結ぶために交渉を続けてきました。4月に行われた第10回国際春季フォーラムには、ISLE前会長のOlga Fischer氏（アムステルダム大学）をゲストスピーカーとしてお招きするとともに、交流関係について最終的な詰めを行いました。その後の両学会での検討を通して次のような形で交流を続けていくことになりました。（なお、交流の形態については本学会ウェブサイトにも掲載する予定です。）
- ・ 相互の大会（ISLE の Conference of the International Society for the Linguistics of English と本学会の Spring Forum）に会員を発表やワークショップなどの形で派遣し合う。その際、本学会の会員には学会として出張費の一部を負担する。
- ・ 本学会の会員は *English Language and Linguistics* の冊子体を割引価格で購入することができる。

これを受けて、理事会では、2018年7月にロンドンで開催される ISLE の第5回大会（ISLE 5）に、ワークショップの提案という形で会員を派遣することを決定し、現在候補者を検討しているところです。

○ ELSOK (The English Linguistic Society of Korea) との交流では、隔年で本学会の会員を ELSOK の大会に派遣しています。来年度はその年度にあたるため、現在理事会で候補者について検討しています。

編集委員会より

◇ 2016年度EL論文賞の決定について

EL 33巻に掲載され、1次審査通過論文として選定されたArticle 4編 (Syntax/Historical Linguistics 1, Syntax 3) について、編集委員長・副委員長を含めた6名の最終選考委員により最終審査が行われ、以下の1編が受賞論文として決定しました。

小池 晃次: “The Development of Negative-Initial Constructions in the History of English” (分野: Syntax/Historical Linguistics)

◇ *English Linguistics* 第33巻2号 (2017年春号) の刊行について

EL 33巻2号 (春号) が刊行されました。Article 7編、Brief Article 1編、Notes and Discussion 1編、Review Article 1編、Review 7編が掲載されています。刊行が大幅に遅れ、会員の皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第34巻1号 (2017年秋号) の刊行予定について

EL 34巻1号 (秋号) は2017年9月に刊行される予定です。Invited Article 1編、Article 1編、Review 13編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第34巻2号 (2018年春号) の応募論文について

2017年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は17編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 12編 (Morphology 1, Syntax 7, Semantics 2, Cognitive Linguistics 2)、Brief

Article 4編 (Syntax 2, Semantics 1, Corpus Linguistics 1)、Notes and Discussion 1編 (Historical Linguistics 1) でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Brief Article 3編 (Syntax 3) でした (一次審査でArticleとして投稿された後、Brief Articleに投稿部門を変更して再投稿された1編を含みます)。

以下の表は、慫慂によるReview 4編と34巻1号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、34巻2号に再投稿された論文3編も含めた、34巻2号の審査状況です (2017年7月31日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	12	0	5	0	7
BA	4	0	2	0	2
N&D	1	0	1	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	4	3	0	0	1
4ヶ月書き直し					
AR	0	0	0	0	0
BA	3	2	1	0	0
合計	24	5	9	0	10

◇ *English Linguistics* 第35巻1号 (2018年秋号) への投稿について

2018年9月発行予定の*English Linguistics*第35巻1号の応募締め切りは、2017年9月20日(水) 24時(必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2017：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、EL 35巻の編集に向けて、本年度も「特別企画2017：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2017年12月15日です。公募案内が学会ウェブサイトに掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

大会運営委員会より

◇ 第35回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には50件の応募があり、審査の結果38件が採用されましたが、うち1件の辞退がありました。よって、研究発表の件数は37件となりました。

◇ 第10回国際春季フォーラム報告

日本英語学会第10回国際春季フォーラムは、2017年4月22日(土)・23日(日)の両日、明治学院大学白金キャンパスにおいて開催されました。今年度のフォーラムでは、国内外からの3名の研究者による招待講演、22件の口頭発表、そして3件のポスター発表が行われました。133名の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の佐野哲也先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の方々、柴崎礼士郎実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

◇ 国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告

第9回国際春季フォーラムより、優秀な若手の研究発表者を顕彰する制度として、国際春季フォーラム優秀発表賞が創設されました。第10回国際春季フォーラムでは、応募資格があり発表賞審査を希望する応募者を対象に、査読段階の点数による1次審査と、フォーラム当日の発表に対する2次審査が行われました。審査の結果が6月に開催された大会運営委員会で審議され、三野貴志氏の研究発表“Pragmatic Constraint on *There Speak* Construction and Its Peculiarities”に国際春季フォーラム優秀発表賞(佳作)を授与することが決定しました。審査結果は学会ウェブサイトにて公表されています。

広報委員会より

◇ *EL*バックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過した*EL*のJ-STAGE 3(科学技術情報発信・流通総合システム)でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2017年7月末日現在、*EL*第30巻1号(2013)まで公開されており、現在第30巻第2号の作業を進めています。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ *EL* 最新刊 PDF 版の会員向け公開について

2016年2月より*English Linguistics Online*の名称で学会ウェブサイトの以下のURLにて*EL*最新刊のPDF版論文を公開しています。2017年6月には、*EL*第33巻1号・2号の掲載論文がアップロードされました。なお、*EL Online*のPDFへのアクセスには、印刷版*EL*の毎巻2号の裏表紙内側に印刷されるIDとパスワードが必要となります。

http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

◇ 新人賞と学会賞(論文)の応募状況

2017年度新人賞と学会賞(論文)の応募は5月31日に締め切られました。有資格者である2016年度*EL*論文賞受賞者から、新人賞1件の応募がありました。対象論文は歴史言語学／統語論に関する論考です。現在、選考委員会において厳正な審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。なお、学会賞(論文)への応募はありませんでした。

◇ 学会賞(著書)の応募状況

5月31日に締め切られた2017年度学会賞(著書)には2件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は2件とも受理されま

した。審査領域は、言語獲得1件と統語論1件です。学会賞（著書）は、1次審査と最終審査の2段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

言語系学会連合について

今年度は、日本語学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2017年4月より1年間）

仁田義雄（委員長、日本語学会）、山内博之（日本語教育学会）、廣瀬幸生（日本英語学会）、カイト由利子（全国語学教育学会）、小林正人（日本言語学会）

【監査委員】

岡田 禎之（日本英語学会）（学会として2016年4月より2年間担当）、クセン オアナ マリア（全国語学教育学会）（学会として2017年4月より2年間担当）

【事務局】（任期は2017年4月より1年間）

野田尚史（事務局長、日本語学会）、三宅知宏（事務局、日本語学会）、東条佳奈（事務局、日本語学会）

6月17日に大阪大学で運営委員会が開催され、昨年度の活動と決算案、今年度の活動計画案と予算案等について審議が行われ、すべて承認されました。

日本英語学会は2019年度に開催する公開特別シンポジウムを担当することになっています。今後、理事会などでその内容について検討することになっています。

連合に加盟している学会の活動予定が、英語学会の大会予定も含めて、言語系学会連合ホームページの「加入学会カレンダー」に掲載されますのでご活用ください。

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>

今年度の公開特別シンポジウムは、日本語学会担当のもと国立国語研究所との共催で、2018年1月20日（土）午後に、「ことばのプロフェッショナル」（於東京証券会館ホール）と題して開催されることになりました。詳細は、上記の学会連合ホームページに掲載される予定です。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2017年6月1日現在の会員総数は1303名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。今年度の学生（継続）会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ *EL, JELS*への論文投稿に関するお願い

*EL, JELS*に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS*投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

*EL*に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

*JELS*や所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させて*EL*に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用下さい。

◇ **EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い**

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛 (elsj-info@kaitakusha.co.jp) にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ **JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い**

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局まで (elsj-info@kaitakusha.co.jp) お申し出下さい。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

◇ **EL公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1

週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ **新事務局の体制**

本年度4月1日付けの伊藤たかね会長の就任に伴い、事務局でも次のような異動がありました。新事務局のメンバーは前事務局の方々から多くのサポートをいただいておりますが、何分にもそれぞれの業務に不慣れです。会員の皆さまにご迷惑をおかけしないよう業務に臨む所存ですが、皆さまのご理解とご協力を今後ともお願いいたします。

退任

事務局長 梅原大輔（甲南女子大学）

（2017年4月30日付）

大会運営委員会・評議員会書記

森英樹（福井県立大学）

財務担当書記

初谷智子（姫路獨協大学）

広報委員会・学会賞委員会書記

藤井友比呂（横浜国立大学）

理事会書記

岩崎真哉（大阪国際大学）

（編集委員会書記は2017年9月末まで留任）

理事会書記

黒川尚彦（大阪工業大学）

（編集委員会書記は2017年9月末まで留任）

（以上 2017年3月31日付）

国際春季フォーラム書記

初谷智子（姫路獨協大学）

（2017年4月30日付）

就任

事務局長 磯野達也（成城大学）

（2017年5月1日付）

大会運営委員会・評議員会書記
菅原真理子（同志社大学）
財務・学会賞委員会・理事会書記
岡部玲子（日本大学）
広報委員会書記
磯部美和（東京藝術大学）
編集委員会書記
八島純（専修大学）
編集委員会書記
下仮屋翔（産業医科大学）
（以上 2017年4月1日付）
国際春季フォーラム書記
磯部美和（東京藝術大学）
（2017年5月1日付）

大詰めを迎えようとしています。そうした業務の他に、ウェブの発達と少しずつ厳しくなっている予算とを考慮して、より迅速にそして頻繁に会員の皆さまに情報をお伝えできるようメールやウェブを使った情報や文書の配信を検討することも事務局の課題となっています。会員の皆さまが英語学会を通してより有益な研究活動を行えるよう事務局一同尽力して参りますので、今後ともご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

(T.I.)

編集後記

今年度で10回目を迎えた春季フォーラムが明治学院大学で開催されました。新たに研究交流を進めることとなったISLEの前会長Olga Fischer氏の他、合計3件の講演、国内外からの約30件の研究発表とポスターセッションが行われ、この3年間では最も多くの方の参加がありました。そのため用意していただいたハンドアウトがいくつかの研究発表で不足することとなりましたが開催校委員の方々の迅速な対応で補うことができました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

第35回大会は東北大学での開催です。地下鉄川内駅とキャンパスが直結し、駅から会場まで3分ほどと非常に便利な環境です。開催校委員、運営委員の方々の精力的なご協力で準備が着々と進んでいます。東北大学生協のご協力で宿泊施設も斡旋していただいております、本学会のウェブサイトからも予約が可能です。爽やかな秋の仙台で皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。

5月1日に事務局を引き継ぎ、前事務局の皆さまに多面で助けていただきながら、めまぐるしく3か月が過ぎました。すべき仕事のいくつかをこの夏の課題として残していたため、その処理に追われています。これから秋の大会に向けて準備も

2017年8月30日発行

編集・発行 日本英語学会
代表者 伊藤 たかね
発行所 日本英語学会
<http://elsj.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900